

編集長：塩澤諒子
編集委員：石井宏典 蛭灰谷愛 平岡性
増田圭輔 矢原有理 ファリス・ジェイ

八尾まちづくりシンポジウム2008 4年間の集大成、そして次のまちづくりへ

M1 鎌形 敬人



八尾プロジェクト4年間の総仕上げ、八尾まちづくりシンポジウム2008が、3/9(日)に開催されました。

八尾プロジェクトは、2004福島、2005西町、2006上新町とこれまで小さな町単位で関わってきましたが、今年八尾旧町全体を対象にまちづくり大学を開催、そしてこの4年間の活動をこれからの八尾のまちづくりにつなげる、という位置付けで今回のシンポジウムが開催されました。シンポジウムのテーマは、「今日からはじまる八尾のまちづくり」。ビジョンは大きく持って、しかし他人任せのまちづくりではなく、今日ひとりひとりが出来ることから始めよう、という想いが込められています。

「今日」からはじまる八尾のまちづくり
東京大学都市デザイン研究室では、2004年度より、八尾の中心市街地のまちづくりの調査・提案を住民の方々とともにしてきました。「今日」の八尾まちづくりフォーラムでは、これまでの調査・提案を総括し、皆さんが自分で、「今日」すぐにはじめられるまちづくりのアイデアをお伝えします。皆さんの一人一人の手によって営まれる「まちづくり」が、八尾のまちに明るい未来をもたらすものになることを強く期待しています。



本日のプログラム

- 第一部：都市デザイン研究室活 2004-2007
八尾のまちづくりの展望 / 西村幸夫
都市デザイン研究室のこれまでの活動
～休憩～
- 第二部：八尾のまちづくりへの提案
提案1 豊かな山や川、坂を輝かせる
提案2 歩いて楽しいみちをつくる
- ディスカッション -
～休憩～
提案3 生活に根ざした伝統・文化を磨く
提案4 人と人とのつながりを守り育てる
- ディスカッション -
- 第三部：八尾のまちづくり、宣言

東京大学都市デザイン研究室
八尾プロジェクトメンバー
2004-2007
西村幸夫 遠藤新 中島直人 安藤義和
岡村祐 倉橋宏典大谷剛弘 田辺康弘
金宗範 永瀬節治 後藤健太郎
三沢茂樹 江口久美 楊恵豆 伊藤雅人
塩澤諒子 筒井直央 平林直
ポンサン・ウエイエンプラディ
鎌形敬人 亀長尚尋 佐古奈々美
大道亮 パンノイ・ナッタポン



シンポジウムでは、西村先生からの講演に続き、都市デザイン研究室の4年間の活動を報告、そしてデザ研から八尾のまちづくりへ4つの提案を行い、これを基にコメンテーターの方々に貴重なご意見を頂きました。また、最後には参加者の方々に、まちづくりへの想いを記した「私のまちづくり宣言」なるものを書いて頂き、様々な想いが集まりました。

ひとを、まちを、動かしていくことを痛感し続けた1年でしたが、少しでも私たちの想いが八尾のまちに伝わってくれればよいと思います。



高山プロジェクト最終報告 M1 大道 亮



【景観シミュレーション】

上：現在の町並み
右：修景後の町並み



年度末の嵐が研究室に吹き荒れていた3月2、3日、高山越中街道プロジェクトも最終報告をすべく、報告書を携えて高山へ行ってきました。

その報告書、実は高山についてやっと完成するというギリギリぶり。(手書きの補完がある報告書も味なものです。) どうなることやらと不安を抱えて望んだ報告会でしたが、街並み保存会、高山市教育委員会、都市デザイン研究室の3者で活発な意見交換がなされ、一安心。特に同じカットで7枚作製した街並みのシミュレーションや、数軒ごとに街並みを再生していこうという提案で盛り上がりしました。

2007年度最後の訪高となりましたが、越中街道の街並み再生はむしろここからがスタートです。まだまだ一步を踏み出したばかり。今後も歩を進めていきたいと思っています。なお、今回の最終報告会は高山で行われる西村先生の講演会と連動したものでした。講演会には多くの方が来場され、世界遺産を目指す高山の気運の高まりが伺えました。

研究室への置き手紙・前編

修士2年、最後の寄せ書き



■筒井 直央

新宿八尾京浜P、読書会、皆との旅行、研究室での毎日、修士2年間どこを切り取っても本当に楽しい思い出ばかりなことに自分でも驚いています。もっといい時間を過ごせるように、今度は自分自身頑張っていこうと思っています。



■横田 俊介

Theme: よこちん評論

都市デザイン研究室に感じる魅力とは？

都市～様々な地形と気候に抱かれ、人類が多様な文化を育む舞台～。それは一種の芸術作品であり、実に多様に味わうことができる。その見方・楽しさを教えてくれる、たくさんの個性溢れる人々に出会えた。最大の魅力だと思う。

今年研究室を去る修士2年のみなさん。長いようで短い2年間、その感謝・感動・反省など、ひとことずつメッセージを残してもらうことにしました。



■石井 宏典

2年間かけて研究室で得たものは、人に伝えるべき技術でも、社会への貢献でもなく、ただ自身の成長。人から多くを学んだことを喜びつつ、人に僅かしか与えられなかったことを恥じつつ、新しい世界へ向けて大学を立ちます。



■塩澤 諒子

建築なり都市なり、自分の立ち位置だったり主張、考え方をこの2年間で少しでも固めたいという想いでいましたが、正直はっきりとした輪郭は見えず仕舞い。

結局やり残したことはたくさんあって、これからもこの課題は続きそうです。

「小さな公共空間(PLS)」実験始動！

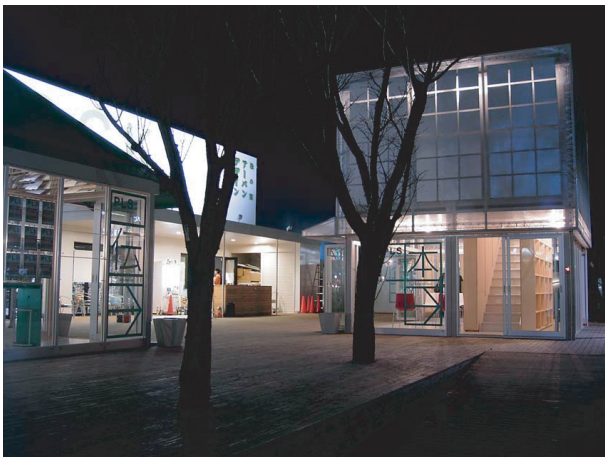
@柏アーバンデザインセンター

柏・UDCKにて、「小さな公共空間(PLS)」の実証実験がスタートし、3月8日、そのオープニングパーティが開かれました。

PLSは、ユニットという簡単な建築物を使って、新しい形の公共空間が作れないかを考えるもので、2007春に行われた都市デザインスタジオで出されたアイデア(都市デザイン研ではM2伊藤、M1平岡が参加)を実現させたものです。

現在は、その第一段階として、UDCK横のデッキに、インフォボックス、ブックサービス、プロジェクトハウス、足湯という4つの公共空間が出来上がっています。また、休日には、様々なアーティストが来て、イベントを行う予定です。

オープニングパーティ当日は、関係者の他、市民の方も多く訪れ、PLSの建築面での設計者・佐々木龍郎さんや、プログラム面での計画者・橋田洋子さんの説明に感心しながら、施設を眺められていました。



PLSは、3月30日まで行われます。イベント等への参加も含め、ぜひ時間がある時にその空間を感じてみてください！

M2・卒業旅行

なごり雪の群馬に、思い出つもる

text_lshii

修士発表の余熱も冷めやらぬ2月17日～19日、2泊3日の旅程で、本郷・柏のM2・12名は卒業旅行に行って来ました。

目的地は、まだ雪の残る群馬。凍りついた榛名湖や伊香保温泉を訪れ、冬の北関東の魅力を満喫しました。さらに、アントニン・レイモンドの群馬音楽センターや、ヨコシマコトの富弘美術館、近代日本の里標である旧富岡製糸場など、建築散策も大変興味深いものでした。

また、群馬は塩澤編集長の故郷でもあります。2日目の夜は前橋のご実家にお邪魔し、明け方まで皆で語りました。



今年のM2陣、全員が就職内定・希望。その多くが3月で研究室を去ることになります。最後の最後にして同期の皆がこうして集まったことは、忘れられない思い出になりました。

我々みな4月から異なる土地、異なる立場で、また都市に関わっていきます。今後の活躍にぜひご期待ください！

編集後記

text_lshii

修了式2日前、時計の針は午前3時。私の研究室での最後のAi作業は、どうやらこのマガジン編集の仕事になりそうです。

編集部に加わって2年間。仕事は坂内前編集長・塩澤現編集長に頼りっぱなしでしたが、途中歩きながらもなんとか完走できてほっとしています。マガジンの仕事は、外に伝わり、後に残るので非常にやりがいのある仕事でした。ふとした拍子、Google検索でマガジン記事がひっかかるたびに、それを誇りに思ったものです。

この1年、多くの有能な編集員が仲間に加わったことで、負担も減り、英語版も作成されました。今後は読み手の一人として、さらなる発展を目指すマガジンを見守りたいと思います。